

## チンパンジーの森と SDGs（持続可能な開発目標）

川口芳矢

野生動物の生息地における現状を理解し、自分自身との関わりについて考えてもらうことを目的として、来園者自由参加のラリー形式プログラム『大人のための参加型企画 あなたと一緒に考える、チンパンジーの森の未来』を実施した。期間は2018年9月1日から10月1日、対象は13歳以上とした。参加者には、チンパンジー展示場前に置かれた冊子を手に入れ、「チンパンジーを絶滅から守るために最初に解決すべき課題は何だと思いますか」という問いに対して10の選択肢の中から1つを選び、冊子から切り取った投票用紙を投票するワーク前投票をしてもらった。次に、園路に設置された森に関わる様々な立場の人のイラストと彼らが語る課題が書かれたパネルを読んでもらった。全てのパネルを読んだ後、再び先ほどと同じ問いと選択肢の中から1つを選びワーク後投票をしてもらった。ワーク後の投票箱の背後には、『チンパンジーの森と SDGs』と題したパネルを設置し、プログラムに登場した人々の課題とSDGsを結び付けて示し、さらに参加者とのつながりを示唆する文章を記して参加者自身に考えてもらうようにした。また、冊子にはウェブ上に掲示している本プログラムのQRコードを添付し、他の参加者の投票と自らの投票を見比べて考えを深められるようにした。実施期間中に520冊を配布し523票の投票を得た。内訳はワーク前281票（投票率54.0%）、ワーク後242票（投票率46.5%）であった。ワーク前投票では「生息地の確保」が120票（42.7%）で最も多く、以下「現地の人々への教育」36票（12.8%）、「現地の理解」27票（9.6%）、「現地の雇用確保」23票（8.2%）、「野生動物の生態解明」22票（7.8%）、「先進国の行動変容」18票（6.4%）、「飼育繁殖技術の確立」15票（5.3%）、「先進国の理解」11票（3.9%）、「先進国の介入」9票（3.2%）、「野生動物を守る必要はない」0票であった。一方、ワーク後投票では「現地の雇用確保」の59票（24.4%）が最多で、以下「現地の人々への教育」47票（19.4%）、「生息地の確保」45票（18.6%）、「現地の理解」23票（9.5%）、「先進国の行動変容」20票（8.3%）、「飼育繁殖技術の確立」15票（6.2%）、「野生動物の生態解明」12票（5.0%）、「先進国の介入」10票（4.1%）、「先進国理解」9票（3.7%）、「野生動物を守る必要はない」2票（0.8%）であった。ワーク前後で「生息地の確保」が占める割合に変化が見られたのは、参加者がプログラムを通じて課題が複雑に絡み合っていることを理解したことによると考えた。この変化は講義形式で行った時とほぼ等しく、不特定多数を対象にしたラリー形式でも生息地の状況を伝えられる可能性が示唆された。また、ウェブ上で投票結果を随時更新したことによるSNSなどの書き込みから、プログラム終了後も考えが継続していることが推察され、大人に向けた教育プログラムになったと思われる。